# 教育のぼりべつ

令和元年
12月1日
No.24

発行；登別市教育委員会 TEL. 0143-88-1100　〒059-0014 登別市富士町７丁目33番地

**～東京２０２０オリパラで夢を育むスポーツ事業～**

## 瀬戸大也さんトークショー

９月２９日（日）１０時３０分より、登別市民会館大ホールにおいて、リオデジャネイロ五輪４００m個人メドレー銅メダリストである、瀬戸大也選手をお招きして、トークショーを開催しました。

瀬戸大也選手は、今年７月に韓国・光州で開催された世界水泳選手権に出場し、２００m・４００m個人メドレーにおいて見事に優勝して２冠を達成し、東京オリンピックの出場が内定しています。






トークショーでは、これまで積み上げてきた厳しい練習の内容や、大会に臨む時の気持ちの在り方などを自らの経験をもとに、分かりやすく話してくれました。また、いよいよ来年に迫った東京オリンピックでの優勝を目指して、一層努力していくことを熱く語っていました。

引き続き、午後から市民プール「らくあ」で実施された実技指導では、会場に詰めかけた沢山の子供たちや保護者に華麗な泳ぎを披露するとともに、子供たちに基本の泳ぎ方を丁寧に教えていただき、大変有意義な一日となりました。

## 「学校給食展」の開催

学校給食センターでは、日頃から安心・安全な給食の提供を第一に考えて各種業務を推進するとともに、「学校給食展」の開催や「栄養教諭による食育の授業」といった各種事業にも取り組んでいます。

１０月４日(金)に市民会館で開催された「学校給食展」では、地場産の登別鮭を使った「石狩汁」や「登別牛乳」が献立に含まれた「給食試食会」や、納入業者による各種商品の紹介などを通して、多くの市民の皆さんに、学校給食に対する理解を深めていただく貴重な機会となりました。



＜納入業者による商品紹介の様子＞



＜給食試食会の様子＞

# 笑顔が輝く「学芸会」（若草小学校）


１年 音楽「若草TV」

１０月１２日(土)、若草小学校体育館を会場に学芸会が実施されました。台風１９号の接近で、天候が心配されましたが、何とか最後まで雨にも当たらず、成功裏に終えることができました。

子供たちは、歌や器楽合奏、劇等に協力して全力で取り組み、各学年ともに、これまでの練習の成果を存分に発揮して、素晴らしい発表を披露していました。


２年 劇「虫たちと運動会」


６年 劇「幸せのバトン」


３年 音楽「音楽のおくりもの」


６年 挨拶「おわりの言葉」

## 善意の気持ちを白石市へ

登別市では、宮城県白石市と子供たちの相互訪問や作品交流等の姉妹都市交流事業を実施していますが、今年度「ふるさと豆記者」として白石市を訪問した、富岸・青葉小の子供たちが中心となって、台風１９号により被害を受けた白石市の皆さんのために募金活動を行い、１１月１日に義援金３万８千円と手紙を武田教育長に手渡しました。

気持ちがこもった義援金と手紙は小笠原市長を通じて白石市の皆さんに届けていただきました。


義援金と手紙を寄贈した富岸・青葉小の子供たち

## 教育フォーラムを開催

１１月５日(火)、１８：００より市民会館において教育フォーラムを開催しました。

教育フォーラムは、登別市の教育に関わる諸課題を学校関係者や市民の皆さんと共に考え話し合うことをねらいとして、２年毎に実施しています。

今年度は、「今の子供たちに求められる資質・能力とは」というテーマのもとで、新年度から全面実施となる学習指導要領を念頭に「社会全体で子供たちをどう育てていくか」について、それぞれの立場から考えるとともに、意欲的に意見を出し合い、課題解決に向けて真剣に話し合いました。


テーマにそってグループ毎に話し合う参加者の皆さん

# 登別市教育実践研究奨励校　公開研究会

**１１月１３日(水)　研究主題　「一人ひとりが主体的に学ぶ生徒の育成」**
**西陵中学校　　副主題　～生徒同士の関わり合いを大切にした小集団での協働的な学習を取り入れた授業を通して～**

西陵中学校では、平成２９年度より上記の研究主題を設定し、生徒同士の関わり合いを大切にした「小集団での協働的な学習」を取り入れた授業づくりに取り組んできました。

本年度は、「課題の明確な把握」⇒「活動」⇒「ふり返り」という本校の指導過程の中で、「活動」場面にグループ学習やペア学習などの「小集団学習での協働的な学習」を取り入れることで、生徒同士が学び合いを通し、自ら主体的に学習に取り組み、理解を深めていくよう「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図ってきました。


１年Ｂ組　英語科の授業


３年Ｂ組　数学科の授業


１年Ａ組　社会科の授業

**１１月２２日(金)　研究主題　「学習指導要領の改訂に基づいた授業改善」**
**富岸小学校　　副主題　～道徳科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組～**

富岸小学校でも、平成２９年度から上記の研究主題を設定し、新学習指導要領の全面実施を見据えて、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、国語科を中心に授業改善を図ってきました。


２年３組　貝澤学級


６年３組　牧野学級

３年次計画の３年目を迎えた今年度は、対象教科を道徳科に絞り「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善と、「考え、議論する道徳」に向けた授業の質的転換に資するよう研究を進めてきました。

道徳科における授業づくりでは、「心に響く」道徳を実現するため、ねらいの明確化や、授業段階における意図的な発問の吟味に心がけています。


３年２組　川村学級


ひまわり　稲垣学級

# 新しい学習指導要領

いよいよ、２０２０年度～小学校、２０２１年度～中学校、２０２２年度～高等学校において、「新しい学習指導要領」がスタートします。「学習指導要領」とは、全国どこの学校でも一定の教育水準が保てるよう、文部科学省が定めている教育課程（カリキュラム）の基準です。およそ１０年に一度改訂され、これを基に子供たちの教科書や時間割が作られます。今回の改訂には、これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創っていきたい。そうした願いが込められています。

## 「生きる力」を育むために　子供たちの学びはどう進化するの？

**主体的・対話的で深い学び**（アクティブ・ラーニング）の視点から「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して授業を改善します。

- 一つ一つの知識がつながり「わかった！」「おもしろい！」と思える授業に
- 周りの人たちと共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業に
- 見通しをもって、粘り強く取り組む力が身に付く授業に
- 自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を育む授業に

**カリキュラム・マネジメント**を確立して、教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図ります。

- 学校教育の効果を常に検証して改善する
- 地域と連携し、よりよい学校教育を目指す
- 教師が連携し、複数の教科等の連携を図りながら授業をつくる

学んだことを人生や社会に生かそうとする**学びに向かう力、人間性**など

実際の社会や生活で生きて働く**知識及び技能**

未知の状況にも対応できる**思考力、判断力、表現力**など

社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、**三つの力をバランスよく**育みます。

## 新たに取り組むこと、これからも重視することは？

- プログラミング教育
- 外国語教育
- 道徳教育
- 言語能力の育成
- 理数教育
- 伝統や文化に関する教育
- 主権者教育
- 消費者教育
- 特別支援教育

※　上記のほかに、「体験活動」「キャリア教育」「起業に関する教育」「金融教育」「防災・安全教育」「国土に関する教育」なども充実します。